

## 令和元年度 奈良市立三笠保育園 研究実践概要

園長名	中水明美
全園児数	75名

## 1. 研究主題

『体そだて』

## 2. 研究年度

2年目

## 3. 研究主題設定理由

様々な経験を積み重ね、子どもが自ら楽しみながら心と体を十分に動かし身の回りのことへの関心を深め、子どもが進んで物事に取り組めるような子どもを目指し研究設定主題とした。

## 4. 具体的な研究内容


## ①研究のねらい

体を動かす楽しさを知り、意欲をもって取り組める子を育てる




## ②研究の重点

- (1)「保育園行くのが楽しい・明日は何しよう」と主体的に活動にとりくめるような環境を探る。
- (2)体を動かす楽しさを感じ、意欲的に活動するため発達段階の応じて取り組み方法を探る。

## ③活動の方法

活動内容	気づき
0歳児 ○ハイハイをする。 ・トンネル ・広いスペース ○段差を越える ・ボールプールへの出入り ・布団の山登り	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の遊びに取り入れたことで、床に両手をしっかりつき、ハイハイすることができるようになり、少しの段差や凸凹があってもハイハイで行けるようになった。また、そのことが喜びや自信につながり、自分で行ける範囲が広がった。</li> <li>・足腰が安定し、転ぶことやふらつきが少なく、転んでも両手をつくことができるように</li> </ul>

<p>○おむつ交換時の引き起こし</p> 	<p>なってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭での築山の登り下りや滑り台へ挑戦しようとする姿がみられる。</li> </ul>
<p>1 歳児</p> <p>○ハイハイから繋がる動き。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・階段の上り下り</li> <li>・三笠山を両手両足を使って登る。</li> </ul> <p>○箱車にまたいで入る。</p> <p>○バランスストーン（飛び石）を渡る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階段の昇り降りを、ハイハイで行ったり、急勾配の坂を裸足で登ったりする事で、四肢の踏ん張りや指先（特に足の指）が力強くなった。</li> <li>・遊びの中で足を大きく持ち上げる動きを取り入れた。跨ぐ動きの際に片足で自分の体重を支える経験を積むことができた。</li> <li>・バランスを取りながら渡ろうとする。</li> </ul>
<p>2 歳児</p> <p>○ハイハイの動きを継続して取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンボールのトンネルをくぐる</li> <li>・体ほぐし（のこのこかめのこ）</li> </ul> <p>○走る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけっこ</li> </ul> <p>○自分の体重を感じ、支える力をつ・築山を登り降りする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイハイの姿勢を日々取り入れることで、腕の力が付き、ジャングルジムなどの全身を使う遊びに興味を持つようになった。</li> <li>・転んだ時に咄嗟に手をつけるようになり、けがが減っている。</li> <li>・ふんばってバランスを取りながら、築山を登れるようになった。</li> </ul>
<p>3 歳児</p> <p>○年上児の姿を見たり、友達と体を動かしたりすることを楽しむ。</p> <p style="text-align: center;">タイヤの上を歩く ↓ アヒル歩き ↓ S 棒を跳び越える ↓</p>	<p>下半身を中心にした動きをたくさん入れることで、両足ジャンプが上手にできるようになってきた。両足ジャンプが安定してくると、年上児の遊んでいる様子を見て、大縄跳びに興味を持つ姿が見られるようになった。初めは難しそうに見えたが、何度も繰り返しチャレンジする中でできるようになり、「先生みてー」と自信満々にやって見せてくれるようになった。</p>

<p>ケンケン ↓ 大縄跳び</p>	
<p>4 歳児 ○友達と認め合ったり励まし合ったりしながら、毎日続けることで少しずつできるようになる喜びを味わう。 S 棒・巧技台ジャンプ ↓ ケンケンで進む ↓ ケンケンパ ↓ 大縄・短縄</p>	<p>足腰を使った運動遊びに取り組み、体のバランスをとったり、踏ん張ったりする力がついてきた。いろいろな運動遊びに興味を持ち、友達と一緒にやってみようとする姿もみられる。異なる動きを同時にできるようになり、縄跳びでは、縄を回しながら跳ぶことができるようになってきた。</p> 
<p>5 歳児 ○チャレンジする中で、友達と頑張り認めたり、友達からの刺激を受けたりして、自分もやってみようとする。 ケンケンパ ↓ 大縄跳び ↓ 縄跳び ↓ 走り跳び ↓ 後ろ跳び</p>	<p>バランスをとる力や足腰で踏ん張る力がついてきた。できないことがあると、諦めていたが、継続して取り組むことで、縄跳びでいろいろな跳び方ができるようになった。できなかったことが少しずつできるようになったことで自信がつき、運動面以外もやってみようとする意欲につながってきた。</p> 

## 5. 研究の成果

- 一人一人の発達、興味をふまえて環境を工夫し、安心できる保育者のもとで「やってみよう」という思いを持って体を動かすことができた。
- 「やってみよう」「楽しい」と思える取り組みを考え、友達や保育者とともに取り組むことで、体を動かすことの楽しさを感じ、様々な運動遊びへと興味が広がった。また、できたことが自信になり、少し難しいことでもやってみようとする姿が見られるようになった。
- それぞれの発達段階に合った運動遊びについて考え、毎日の遊びや生活の中で積み重ねていくことで、足腰の力とバランス力がついてきた。

## **6. 今後の課題**

子ども達の成長を見ながら取り組みを見直し、その取り組みを通して、自信を持って何事にも挑戦できる力、あきらめない力を育てられるようにしたい。

楽しみながら体を動かし、一人一人が自分の力を伸ばしていけるように、遊びや生活の中で経験を積み重ねていきたい。